

# 持続的な経営のための基本的な考え方について

---

平成30年9月

総務省自治財政局公営企業経営室

# 持続的な経営のための基本的な考え方

(中長期の視点に立った経営戦略の策定)

- 想定を上回る人口減少に伴う料金収入の減少や更新時期の到来に伴う建設改良費の増加など、水道事業を取り巻く経営環境が厳しさを増す中、持続的な経営を確保するためには、中長期の視点に立った経営戦略がより重要となっている
- 経営戦略の策定に当たっては、アセットマネジメントを実施することにより中長期的な収支見通しを立てた上で、収支の改善に向けて、料金収入の確保や広域化、民間活用等の抜本的な改革を含めた経営基盤強化のための具体的な取組について検討する必要がある
- 経営戦略を策定した後には、定期的な進捗管理と見直しにより、内容の充実を図ることも必要である

(適切なアセットマネジメントの実施)

- 水道事業は浄水場、管路等、多くの事業用資産の保有を前提とした事業であることから、中長期の視点に立った経営戦略を策定するためには、適切なアセットマネジメントが不可欠となる
- アセットマネジメントにおいては、施設台帳を整備した上で、将来必要となる更新需要を踏まえた財政収支見通しを策定することにより、中長期を見通して必要となる料金水準を算定し、経営基盤の強化による収支改善の必要性を把握する必要がある

### (経営基盤の強化)

- 経営基盤の強化に当たっては、更新計画を見直し、更新需要の平準化を図るとともに、料金水準の見直しによる料金収入の確保や、広域化、民間活用等の抜本的な改革による経営効率の向上など、中長期を見通した経営環境の改善を図ることが重要である
- 特に広域化については、事業統合、経営の一体化のみならず、施設の共同化や事務の広域的処理等、多様な類型があり、これらを「できることから」進めていくことにより、更新投資や維持管理費の削減のみならず、民間委託コストの削減、技術水準の確保等、スケールメリットを生かした幅広い効果が期待できることから、積極的な推進が求められる

### (事業用資産の着実な更新)

- 水道は日常生活に必要不可欠なライフラインであり、老朽化による事故等が発生した場合には、国民生活に大きな影響を与えることから、水道サービスを適切に提供する責務を果たすためには、アセットマネジメントに基づく着実な更新投資が不可欠である
- このため、様々な経営基盤の強化を進めても、なお、着実な更新投資のための財源の確保が困難となる経営条件が極めて厳しい団体については、更新投資に係る財政措置を講じ、水道サービスを適切に提供する責務を果たせる環境を整える必要がある